

B-55 樹脂加工布の洗浄時における汚れと樹脂の脱離の関連性について(第1報)

日本女大家政 中西茂子 増子富美

小田原女短大 ○田代京子

目的 未加工布を対象とした洗浄に関する研究はすでに多くなされている。そこで樹脂加工布に着目し、汚れと樹脂の脱離を関連させてとらえ、汚れの脱離に伴う樹脂の脱離の様相を比較検討することにした。

方法 JIS規定の綿とレーヨンに対し、グリオキザール系・尿素系・メラミン系の3種の樹脂を用い既報通り加工した。水溶性の汚れにしょう油・インク、油性の汚れに印刷用インク・ペンキ、特殊な汚れにカーボンブラック・墨汁を用いて上記樹脂加工布をそれぞれ汚染した。洗たくはターゴトメーターを使用し、マルセル石けん濃度を0.2%，浴比を30:1にして、温度を20℃，40℃，60℃に変化させ10分間洗たくした。油性の汚れに対しては、さらにJIS L-0860-1974に基づいて乾式洗たくを行った。汚れの脱離率は測色色差計を用いて、また樹脂の脱離率はIRスペクトルを測定することによって求めた。

結果 湿式洗たくでは、汚れと樹脂の脱離の関係は次の4つに分類できる結果を得た。①汚れも樹脂も脱離し易い場合、②汚れは脱離し易いが樹脂は脱離しにくい場合、③汚れは脱離しにくいが樹脂は脱離し易い場合、④汚れも樹脂も脱離しにくい場合である。好ましいのは②の場合であるが、水溶性の汚れでキュアリングが十分な場合にこの傾向がみられ、特にメラミン系は高温にも堪え好ましい結果を与えた。水溶性の汚れでもキュアリングが不十分な場合は①に属する。油性の汚れでキュアリングが不十分な場合は③に属し、十分な場合は④に属する。乾式洗たくの場合は全体的に④に属する。特にメラミン系は、乾式洗たくの場合樹脂の脱離はほとんどみられなかった。